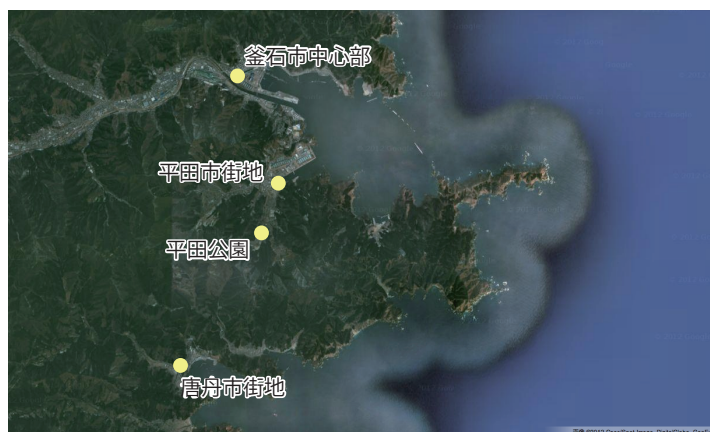


仮設住宅団地 釜石・平田地区 コミュニティケア型 仮設住宅団地



岩手県
釜石市
平田仮設団地まちづくり協議会
東京大学高齢社会総合研究機構



◇ 建築概要	◇ 工程
敷地面積：5,275 ㎡	着工
建築面積：7,154 ㎡	応急仮設住宅：2011.6
延床面積：7,154 ㎡	サポートセンター：2011.6
住戸数：240 戸	完成
駐車場台数：100 台	応急仮設住宅：2011.8
	サポートセンター：2011.7

釜石市平田地区仮設住宅地（平田総合公園）：中心部から6Kmほど入った運動公園。生活利便施設等はなく、不便な場所に立つ大規模仮設住宅地

避難所で出会った高齢者が訴えた。

「私は2度流される。1度は津波で、2度は復興の波だ」

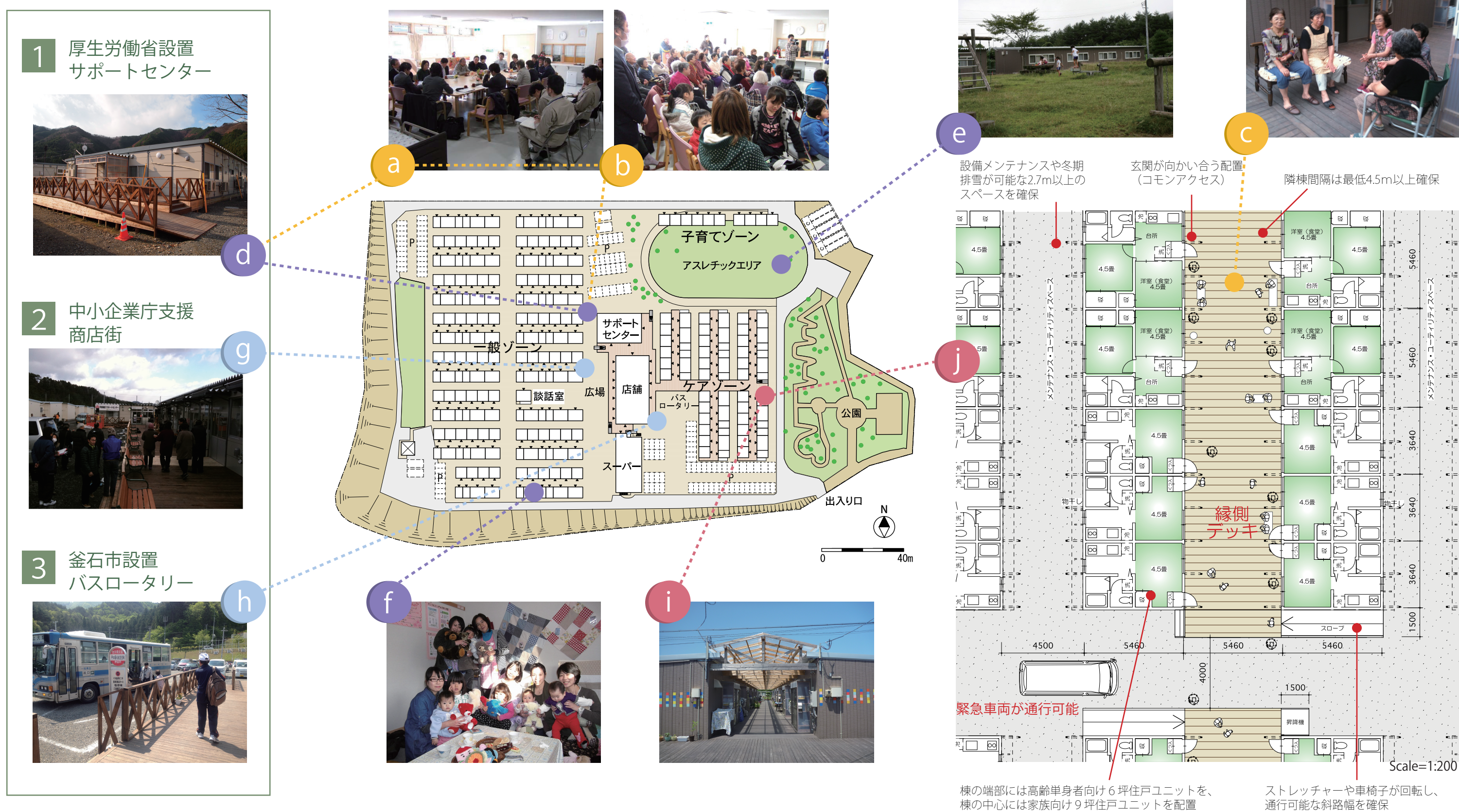
い（医療・ケア）・しょく（職・食）・じゅう（バリアフリー住宅）の機能が揃わなければ、社会的に弱い立場の方は安心して暮らし、復興を目指せない。

被災者自身がコミュニティを築き、支え合える仮設の「まち」は、少しの工夫とみんなの協力で実現することを伝えたい。

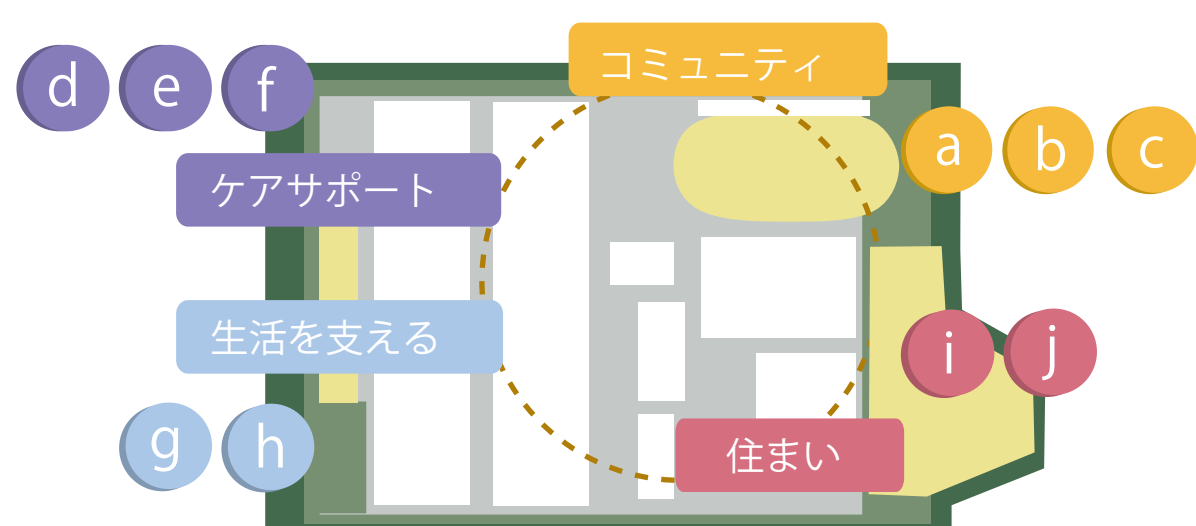
コミュニティ型仮設住宅団地とは

緊急避難、応急措置として大至急住居を与えるのではなく、家を流され、家族や友人を失った被災者が閉じこもることなく、再び生きがいを見つけ、元の生活を取り戻せるような住まいとケア
そして生活に必要な機能が一体的に整備された、少子高齢化社会に対応した仮設の「まち」

みんなでプランニング



プランニングのポイント



商業者、医療・福祉関係者、自治会、行政等で協議会を立ち上げ、地域課題共有と役割分担
自治会を立ち上げ、コミュニティカフェやグランドゴルフ・映画鑑賞会など自主的な地域活動の促進

サポートセンターを併設、LSA（生活支援員）らが仮設住宅を周り声かけ、配食サービス等を実施
診療所（週3日）と心理療養士によるメンタルケア、子育て支援の機能を整備

路線バスの停留所を設置し、学校、病院へのアクセスを確保
被災した商店街を配置し、生活に必要な機能を充実

見守りやすいように、共助（コミュニティケア）が生まれるように、ケアゾーン/子育てゾーンを設定
ウッドデッキでバリアフリー化し、ウッドデッキで各種機能を繋ぐ
住棟を向かい合わせにし、屋根をかけて、ご近所つきあいを促進

コミュニティ型仮設住宅団地の成果

ライフスタイルとコミュニティの回復

- ・ウッドデッキでのお茶会、ガーデニングなど人と人とのつながりが回復。自治会がコミュニティカフェや各種イベントなど自主的な地域活動を実施
- ・虚弱化の予防、自殺予防など確実な実績をあげ地元医師会から評価

協働型のデザインプロセスと普遍性のある工夫

- ・研究者、行政（庁内横断タスクフォース）、商業者、介護事業者など分野・領域を超えて関係者全員が話し合いデザイン
- ・既にあるものをみんなで積み上げた、普遍性の高い仮設団地のモデル（必要な機能は後付でも対応可能）

復興まちづくりから日本の高齢社会のモデルへ

- ・復興住宅・復興まちづくりの基本的なまちのモデルへの期待。東海、東南海、首都直下地震などへの適応がはじまる（自治体関係者の視察多数）
- ・国が全国的に推進する地域包括ケアのモデル実践として、被災地から全国へ発信する少子高齢化時代の新しいモデル（マスコミ、政府関係者から取材多数）